



2019年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2018年8月10日

上場会社名 株式会社ウチヤマホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 6059 URL <http://www.uchiyama-gr.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 内山文治
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役経営企画室長 (氏名) 山本武博 (TEL) 093-551-0002
 四半期報告書提出予定日 2018年8月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年3月期第1四半期の連結業績 (2018年4月1日～2018年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第1四半期	6,541	3.7	124	△40.5	214	△16.3	129	△20.9
2018年3月期第1四半期	6,306	7.2	208	—	256	—	164	—

(注) 包括利益 2019年3月期第1四半期 120百万円(△29.8%) 2018年3月期第1四半期 172百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	
	円	銭	円	銭
2019年3月期第1四半期	6	71	—	—
2018年3月期第1四半期	8	49	—	—

2018年3月期第1四半期の経常利益および親会社株主に帰属する四半期純利益の対前年同四半期増減率は1000%を超えるため「—」と記載しております

(2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円		百万円		%	
2019年3月期第1四半期	30,326		15,419		50.8	
2018年3月期	29,986		15,397		51.3	

(参考) 自己資本 2019年3月期第1四半期 15,419百万円 2018年3月期 15,397百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円	銭	円	銭	円
2018年3月期	—	5.00	—	5.00	10.00
2019年3月期	—	—	—	—	—
2019年3月期(予想)	—	5.00	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年3月期の連結業績予想 (2018年4月1日～2019年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
第2四半期(累計)	13,537	3.3	439	△23.9	513	△23.4	334	△24.5	17.29	
通期	27,781	5.2	1,318	10.6	1,371	1.4	881	9.1	45.62	

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年3月期1Q	21,618,800株	2018年3月期	21,618,800株
② 期末自己株式数	2019年3月期1Q	2,287,776株	2018年3月期	2,287,776株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年3月期1Q	19,331,024株	2018年3月期1Q	19,331,024株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・当社では、個人投資家の皆様向けに適宜、事業・業績に関する説明会を開催しています。開催の予定等については、当社ホームページをご確認ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国の経済は、企業収益や雇用・所得環境の改善などを背景に緩やかな回復基調にあるものの、貿易摩擦激化への懸念や地政学的リスクなど不確定な要素も多くあり、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような経営環境下におきまして、当社グループでは、各セグメントで事業戦略に基づく営業活動等を積極的に推し進めてまいりました。また、介護事業、カラオケ事業、飲食事業間において、相互のシナジー効果を向上させるよう様々な取り組みを企画し実践するなどして、積極的にサービスの付加価値向上に努めました。

経費面におきましても、コスト削減を進めることで経営の効率化を行い業績の安定化を図りました。

この結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は6,541,138千円（前年同期比3.7%増）、営業利益は124,060千円（同40.5%減）、経常利益は214,769千円（同16.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は129,738千円（同20.9%減）となりました。

各セグメントの経営成績は以下のとおりであります。

①介護事業

介護事業におきましては、5月に介護付有料老人ホーム「さわやかおかざき館（愛知県岡崎市）」及び併設で障がい児通所支援事業放課後等デイサービス「さわやか愛の家おかざき館」ならびに障がい児通所支援事業放課後等デイサービス「さわやか愛の家しものせき館（山口県下関市）」を開設したほか、6月には介護付有料老人ホーム「さわやか桜参番館（秋田県秋田市）」及び併設で障がい児通所支援事業放課後等デイサービス「さわやか愛の家さくら館」ならびに介護付有料老人ホーム「さわやかひめじ館（兵庫県姫路市）」を新規開設いたしました。これにより、当第1四半期末時点での営業拠点は99ヶ所176事業所となりました。既存施設におきましては、空室を減らすために、近隣の病院や居宅介護支援事業所への訪問による連携の強化を推進することで入居率の安定化を目指した結果、当第1四半期連結累計期間での既存施設の平均入居率は96.7%（前年同期既存平均入居率93.4%）となりました。一方で当第1四半期の新規開設に加えて、前期2月に4施設、3月に1施設の介護付有料老人ホームを新規開設しておりますが、これらの施設の管理人員費や施設維持費等は開設当初から固定費として一定額が必要となることから費用先行となり、当第1四半期の収益にも影響を与えることとなりました。これらの結果、売上高は4,326,261千円（前年同期比11.1%増）、セグメント利益は331,905千円（同1.6%減）となりました。

②カラオケ事業

カラオケ事業におきましては、SNSを活用しクーポン等を積極的に送信するなどして集客の向上に努めましたが、6月14日からはじまった2018FIFAワールドカップロシア大会への関心の高さから客足に影響が及ぶこととなりました。この結果、売上高は1,694,797千円（前年同期比5.1%減）、セグメント利益は114,989千円（同3.9%増）となりました。なお、当第1四半期連結累計期間において新規の開店は行っておりませんが退店を2店舗行ったことから、当第1四半期末時点での店舗数は90店舗となりました。

③飲食事業

飲食事業におきましては、既存店の業態変更を1店舗、タイで1店舗の退店を行ったことにより、当第1四半期末時点での店舗数は国内20店舗、海外2店舗となりました。カラオケと同様に、FIFAワールドカップ開催による集客の鈍化が見られました。これらの結果、売上高は406,210千円（前年同期比6.7%減）、セグメント利益は17,450千円（前年同期はセグメント損失9,250千円）となりました。

④不動産事業

不動産事業におきましては、販売用不動産の売買及び賃貸不動産の仲介業務等を中心に行っております。この結果、売上高は58,757千円（前年同期比53.6%減）、セグメント利益は8,307千円（同76.3%減）となりました。

⑤その他

その他におきましては、ホテル事業において、円安の影響による国内旅行の活性化に伴う需要の獲得を目指し、広告媒体を活用し宿泊客の増加に努めました。この結果、売上高は55,112千円（前年同期比15.4%減）、セグメント損失は7,823千円（前年同期はセグメント損失7,956千円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比べ340,413千円増加し、30,326,721千円となりました。

流動資産は、前連結会計年度末より247,843千円減少し、12,961,067千円となりました。主な要因は、現金及び預金、販売用不動産が減少したこと及び売掛金が増加したことによるものです。

固定資産は、前連結会計年度末より588,256千円増加し、17,365,654千円となりました。主な要因は、建物及び構築物、土地が増加したこと及び有形固定資産（その他）が減少したことによるものです。

当第1四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比べ317,635千円増加し、14,906,926千円となりました。

流動負債は、前連結会計年度末より444,360千円減少し、6,025,896千円となりました。主な要因は、短期借入金、未払法人税等が減少したこと及び賞与引当金が増加したことによるものです。

固定負債は、前連結会計年度末より761,996千円増加し、8,881,029千円となりました。主な要因は、長期借入金が増加したこと及び固定負債（その他）が減少したことによるものです。

当第1四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末より22,777千円増加し、15,419,795千円となりました。主な要因は、利益剰余金の親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による増加と配当金の支払による減少によるものです。

なお、「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 2018年2月16日）等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、財政状態の状況については、当該会計基準等を遡って適用した後の数値で前連結会計年度との比較・分析を行っております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2019年3月期の連結業績予想につきましては、2018年5月14日に公表いたしました業績予想数値から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,315,023	8,873,425
売掛金	1,918,111	2,025,145
商品	67,593	61,760
販売用不動産	989,573	981,739
貯蔵品	372	250
その他	926,367	1,023,825
貸倒引当金	△8,132	△5,080
流動資産合計	13,208,910	12,961,067
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	7,281,803	8,011,655
土地	3,390,199	3,461,729
その他(純額)	856,990	656,073
有形固定資産合計	11,528,994	12,129,458
無形固定資産	77,423	71,416
投資その他の資産		
その他	5,197,995	5,191,367
貸倒引当金	△27,015	△26,587
投資その他の資産合計	5,170,980	5,164,779
固定資産合計	16,777,397	17,365,654
資産合計	29,986,308	30,326,721
負債の部		
流動負債		
買掛金	621,037	562,017
短期借入金	751,004	345,200
1年内返済予定の長期借入金	2,300,777	2,320,956
未払法人税等	269,938	126,946
賞与引当金	236,941	365,303
ポイント引当金	137,972	122,679
株主優待引当金	12,397	-
資産除去債務	17,233	12,800
その他	2,122,955	2,169,994
流動負債合計	6,470,257	6,025,896
固定負債		
長期借入金	6,549,297	7,423,006
資産除去債務	221,321	218,765
その他	1,348,414	1,239,257
固定負債合計	8,119,032	8,881,029
負債合計	14,589,290	14,906,926

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,222,935	2,222,935
資本剰余金	2,666,282	2,666,282
利益剰余金	11,691,849	11,723,433
自己株式	△1,166,007	△1,166,007
株主資本合計	15,415,060	15,446,643
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△17,799	△26,868
為替換算調整勘定	△243	20
その他の包括利益累計額合計	△18,042	△26,848
純資産合計	15,397,017	15,419,795
負債純資産合計	29,986,308	30,326,721

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)
売上高	6,306,310	6,541,138
売上原価	5,683,184	5,949,242
売上総利益	623,125	591,896
販売費及び一般管理費	414,786	467,835
営業利益	208,339	124,060
営業外収益		
受取利息	1,414	1,267
受取配当金	22	2,324
受取手数料	34,664	60,892
その他	34,966	57,807
営業外収益合計	71,067	122,291
営業外費用		
支払利息	18,720	16,639
その他	3,972	14,943
営業外費用合計	22,693	31,582
経常利益	256,714	214,769
特別損失		
減損損失	-	10,042
特別損失合計	-	10,042
税金等調整前四半期純利益	256,714	204,727
法人税、住民税及び事業税	120,033	99,893
法人税等調整額	△27,345	△24,904
法人税等合計	92,688	74,988
四半期純利益	164,026	129,738
非支配株主に帰属する四半期純利益	-	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	164,026	129,738

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)
四半期純利益	164,026	129,738
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	8,294	△9,069
為替換算調整勘定	5	263
その他の包括利益合計	8,299	△8,806
四半期包括利益	172,325	120,932
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	172,325	120,932
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	介護事業	カラオケ 事業	飲食事業	不動産 事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	3,893,498	1,785,760	435,273	126,667	6,241,200	65,109	6,306,310	—	6,306,310
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	2,550	9,685	345	12,581	—	12,581	△12,581	—
計	3,893,498	1,788,310	444,959	127,012	6,253,781	65,109	6,318,891	△12,581	6,306,310
セグメント利益又は 損失(△)	337,213	110,627	△9,250	35,112	473,701	△7,956	465,745	△257,405	208,339

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ホテル事業を含んでおります。
 2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△257,405千円の内容は、セグメント間取引消去120,854千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△378,260千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	介護事業	カラオケ 事業	飲食事業	不動産 事業	計				
売上高									
外部顧客への 売上高	4,326,261	1,694,797	406,210	58,757	6,486,026	55,112	6,541,138	—	6,541,138
セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	2,604	10,909	300	13,814	—	13,814	△13,814	—
計	4,326,261	1,697,402	417,119	59,057	6,499,840	55,112	6,554,952	△13,814	6,541,138
セグメント利益又は 損失(△)	331,905	114,989	17,450	8,307	472,652	△7,823	464,828	△340,768	124,060

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ホテル事業を含んでおります。
 2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△340,768千円の内容は、セグメント間取引消去120,993千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△461,761千円であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
 3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第1四半期連結累計期間において、退店した店舗及び退店が予定されている店舗について、「カラオケ事業」セグメントでは3,608千円、「飲食事業」セグメントでは6,433千円の減損損失を計上しております。